

四月二十五日、久しぶりの月曜朝礼を行いました。子どもたちには最初に右の肖像画を見てもらいました。



三十代以上の方なら、この方のお名前が、すぐにピンと来るのではないのでしょうか。京都神護寺所蔵の国宝、そうです、源頼朝さんの肖像画です。私たちが小学校の頃は、この肖像画が源頼朝さんとして教科書や資料集に載っていました。現在の教科書等には載ってはいりません。

このお方、おそらく源頼朝さんではないだろうという説が有力で、教科書類には、「伝源頼朝像」という形で掲載されているか、別の木像の写真が掲載されているというのが現在の主流です。

この頼朝さん、江戸時代の人たちからすると、五百年も前の人でしたが、『平家物語』という本に、頼朝さんは、「顔が大きく、背が低い。」と書かれているために、江戸の人たちには、顔や頭の大きな人というイメージが広まっていたようです。

「大頭これぞ武将のはじめなり」などとい

う川柳があります。これは、「武将」を「不精」にかけ、大頭の頼朝さん自身は動かず、源範頼や義経といった弟たちに平家を討たせて、自分は不精しているという意味が込められています。なかなかよくできていますね。

頼朝さんが建てた鎌倉の鶴岡八幡宮の入り口には、ひょうたん型の池があり、「源平池」と呼ばれています。池はつながっているのですが、橋が真ん中にかかっている、橋の右側の方が源氏池、橋の左側の方が平家池と呼ばれています。

源氏池には源氏の旗印の「白」と同じ白い蓮が、平家池には平家の「赤」の旗印を表す赤い蓮が植えられています。

最初は、どちらの池にも四つずつ「島」があつたそうです。それを見た頼朝さんの奥さんの政子さんが「気に食わない！」というこゝとで、あることをさせたのだそうです。さて、何でしょう。えっ、源氏池の島の数を増やさせた、目の付け所がいい！でも、違います。政子さんは逆に、源氏池の島を一つ、つぶさせたのだそうです。四つある島の一つをつぶして三つに。島の数が三産ということ、源氏は産めよ増やせよ、栄えるように。平家の島の数は四のまま。四死を迎えるようにと、願ったのだそうです。

源氏の白旗、平家の赤旗。君たちが身近に使っている物で、似たものはありませんか。

そう、赤白帽。赤白帽は、この源平の旗印がルーツと言われています。ご存じでしたか？もうじきハーフトーム・ホリデーに入ります。コロナの感染状況によりませんが、鎌倉に出かけられると、今話したような、興味深い「謎」に出合えるかもしれません。

鶴岡八幡宮に向かう道の途中にある「段葛（だんかずら）」という場所にもある秘密が隠されています。鶴岡八幡宮の「八幡宮」と書いてある額の文字に、ある動物が隠されています。さて、どんな動物でしょう。早く謎解きの旅に出かけられるといいのですが…。

コロナのためにどこかへ出かけられなくても、謎解きはできます。家でじっくりと取り組んでみるのもよいかもしれません。今、体調がすぐれないという人は、この休みを利用して十分休養してください。ハーフトーム・ホリデー明けに、元気な皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

子どもたちにお話しできませんでしたが、昔から伝わる笑い話をおひとつ。回向院での開帳の折、説明の僧が、「これは頼朝公のしやれこうべ。近寄ってご覧なさい」。参詣の人これを聞いて、「頼朝のしやれこうべならもつと大ききものだが。」説明の僧曰く、「これは頼朝公三歳のしやれこうべ」。お後がよろしいようで…。

(立教小学校校長 田代 正行)